

紅葉山文庫における外交関係文書の保管

お茶の水女子大学大学院 院生
高橋 喜子

本報告では、紅葉山文庫に保管されていた外交関係文書に焦点を当て、文庫における文書の管理体制の一端を明らかにする。紅葉山文庫は、江戸城内の紅葉山に設置された幕府の文庫である。一般に將軍家あるいは幕府の図書館といわれ、幕府が収集した書籍を保存・管理していた施設として知られているが、書籍だけではなく、幕府が作成した文書や記録類も保管していた。先行研究により、すでに文書の存在は早くから指摘されており、そのことを踏まえ、近年では、公文書館のような性質も兼ね備えていたという見解も出されている。しかし、書籍の管理や図書館という観点からの研究が多数存在する一方で、文書の管理に注目した研究はあまり見られない。そのため、個々の文書や記録類が文庫においてどのように管理されていたのか、ほとんど明らかになっていないのが現状である。今回は、外交関係文書、中でも朝鮮書翰（朝鮮通信使が来朝した際に幕府と取り交わした書翰）を取り上げ、紅葉山文庫における外交関係文書の保管状況、管理体制を明らかにする。